



当時のお話

宝来町(立野地区)

みやもと

としあき

宮本 敏明さん

写真は昭和36年に撮影されたもので、近所の親戚3軒で購入した耕耘機で田植えに向け田んぼをならしているところです。当時は耕耘機に木で作ったならし棒を結びつけ、耕耘機を押す人と、ならし人の2人組で作業をしていました。親戚の中で、宮本さんが一番若かったこともあり、耕耘機を押すのはいつも宮本さんの役目で、親戚の田んぼの他にも依頼を受けた地域の方の田んぼでも作業しました。

残念ながら、今の季節にちょうどいいはさがけの写真は見当たりませんでしたが、思い返すと、雨の日や台風が近づくたびに刈り取った稲をはさからおろさなければならず、大変だった思い出がよみがえってきます。